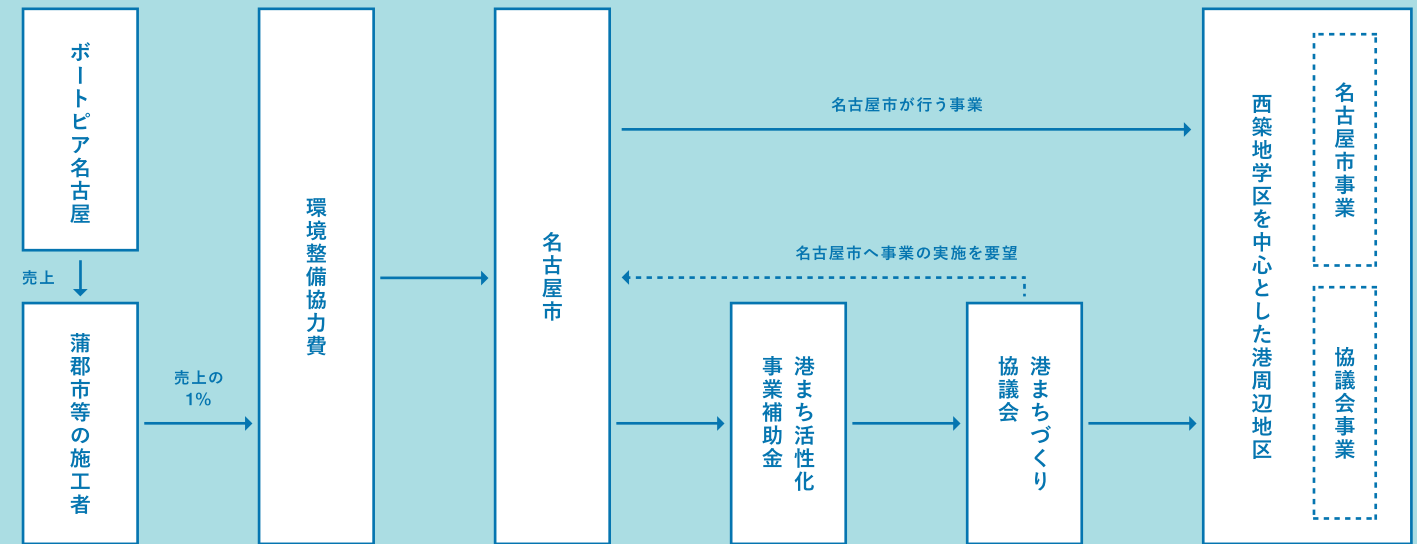
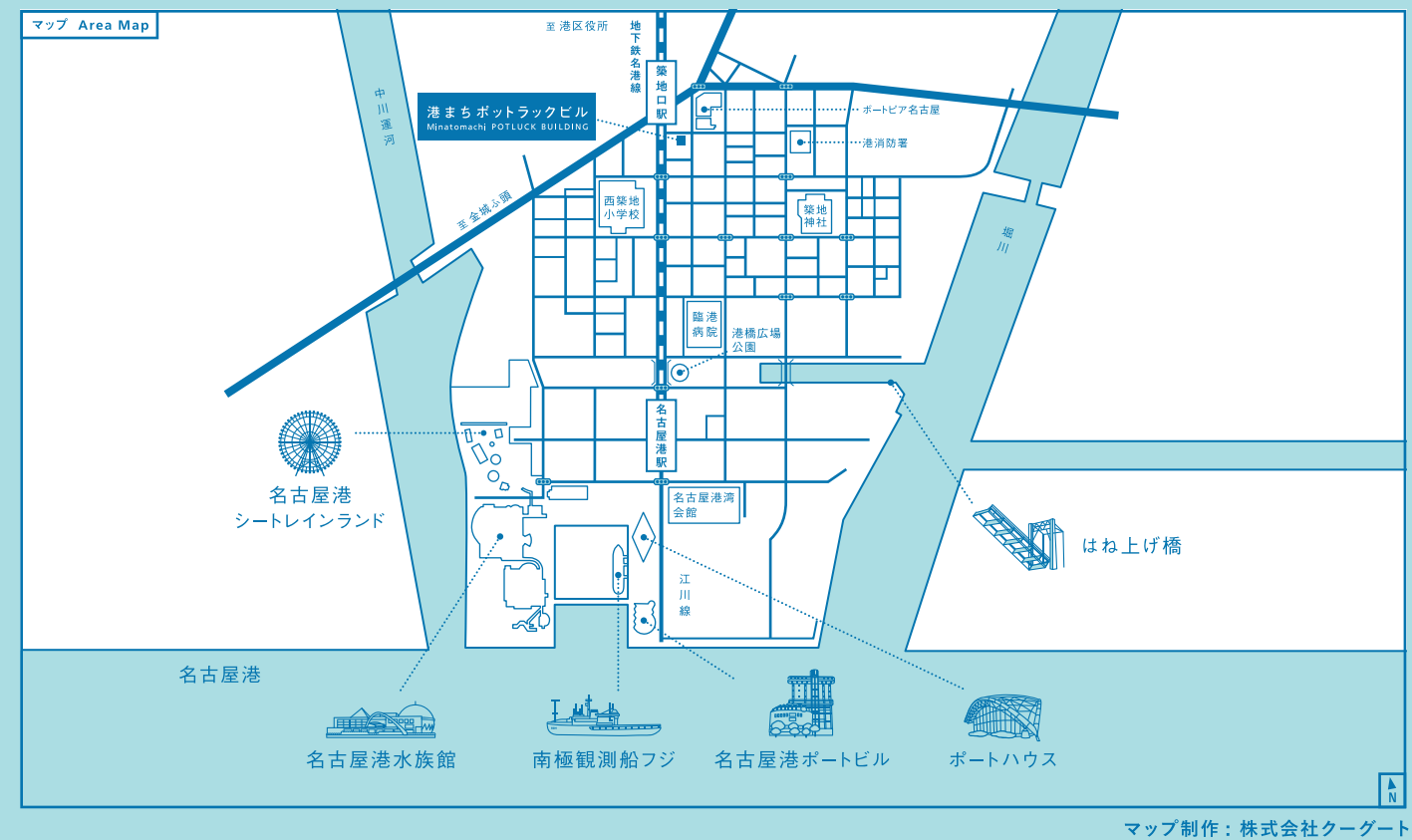


活動の仕組み

私たちの活動は、全国でも稀な仕組みによって支えられています。はじめは2006年（平成18年）の「ポートピア名古屋」開設でした。競艇事業の収益の一部が「環境整備協力費」として名古屋市に交付され、公金を原資として港まちづくり協議会はスタートしました。公共事業としての責任を持ちながら、街の未来の景色を想像し活動に取り組んでいます。



港まち・西築地の範囲



マップ制作：株式会社クーグート

会長の言葉

港まちづくり協議会が発足して早くも20年が経ちました。協議会はこれまでも、防災、子育て、にぎわいづくりなど、多方面にわたる地域課題と向き合いながら、様々な取り組みを行って参りました。近年では、ようやく地域の中にも知られる存在になり、新しい世代からの期待の高まりも感じています。しかしながら全国でもみられるように、空き店舗の増加、住民の少子高齢化等、地域の変化は激しさを増しています。そのような局面で、協議会ビジョンの改定を2年に渡り実施してきました。地域内外の皆さんのお力をお借りして、なんとかして乗り切りたいと気持ちを新たにしています。西築地は、全国から人々が集まり力を合わせて築いてきた、文化が息づく港まちです。そんな港まちならではの危機への立ち向かい方が必ずあると信じています。若い皆さんの力を頼りにしています。

港まちづくり協議会 会長
小神 一夫

港まちづくり協議会メンバー

- | | | |
|-----|-------|---|
| 会長 | 小神 一夫 | (西築地区区連絡協議会推薦) |
| 副会長 | 高崎 勇一 | (築地口商店街振興組合推薦) |
| | 横井 智雄 | (名古屋市総務局総合調整部総合調整課長) |
| 委員 | 佐藤 功一 | (西築地区区連絡協議会推薦) |
| | 横井 智雄 | (西築地区区連絡協議会推薦) |
| | 木村 聡 | (西築地区区連絡協議会推薦) |
| | 竹川 春久 | (築地口商店街振興組合推薦) |
| | 伊藤 直起 | (港区役所区政地域力推進課長) |
| | 林 俊樹 | (名古屋市住宅都市局まちづくり企画部名港開発振興課長) |
| | 大澤 健 | (名古屋市緑政土木局港土木事務所長) |
| 事務局 | 渡邊 栄一 | (名古屋市スポーツ市民局地域振興部地域振興課長・港まちづくり協議会 事務局長) |
| | 大西 未来 | (港まちづくり協議会 事務局次長) |
| | 間宮 千晴 | (港まちづくり協議会 事務局員) |
| | 東 唯 | (港まちづくり協議会 事務局員) |
| | 西村 隆登 | (港まちづくり協議会 事務局員) |

ビジョン改定検討会議メンバー

ファシリテーション 浅野 健 (株式会社 都市研究所スペース) 出席
港まちづくり協議会メンバー

制作 株式会社レジスタ
デザイン アキ・タチバナ (ニューロジェン・スタジオ株式会社)
撮影 中村 春奈 / 藤井 昌美 / 三浦 知也
発行 港まちづくり協議会 2026年3月

※令和7年3月現在、敬称略

港まち VISION BOOK 2026-2031

港まちづくり協議会

港まちづくり協議会とは

「まつり」と「にぎわい」の文化を受け継ぎ、これからの港まちを、一緒につくる場所。



1 市民と行政の協働で育む港まち

港まちづくり協議会は、名古屋の海の玄関口である名古屋港・西築地エリアを拠点に、市民と行政が協働してまちづくりを進める組織です。私たちの活動の原点には、名古屋市が策定した「港まち活性化の方針」があります。そこには、「港まちの魅力・にぎわいづくりを目指す事業」と「暮らしやすい地域づくりを目指す事業」という2つの事業を行うことが記されています。この方針を基に、さまざまな事業を実施し、港まちならではの風景を育てていくことを目指しています。

2 3つのテーマで描くまちづくり

私たちの活動のベースには、大切にしている「3つのテーマ」があります。暮らしやすい地域を目指す「暮らし」、港まちの魅力・にぎわいを生む「集う」、多様な人々と共に進める「創る(協働まちづくり)」。この3つの柱のもと、防災から居場所づくり、創造性を活用したファンづくりまで、これからの街を支える具体的なシナリオを展開しています。

3 “新しい風”を呼び込み、共に育てる

これからの街をつくり、支えていくためには、多様な人々の力が必要です。私たちは、地域にお住まいの方々はもちろん、学生、企業、クリエイターなど、外からの“新しい風”となる担い手の参入を促進しています。地域の意向を大切にしながら、さまざまな人々と協働し、みんなのアイデアや「やってみたい」というチャレンジをまちづくりに活かしていく。それが私たちの役割です。

令和8年3月

「まつり、にぎわいの港まち 西築地」

西築地が誇る「みなと祭」は、地域の人々が力を合わせて作りあげてきた、年に一度の特別な時間です。祭りの日には世代を超えて人が集まり会話が生まれ、街に大きなにぎわいが広がってきました。街のにぎわいは祭りのような特別な日だけでなく、公園での集まりや小さな催し、喫茶店での休憩など日々の暮らしの中でも育まれています。まつりやにぎわいの文化を大切にしてきた港まち西築地。この街らしさをこれからも受け継ぎながら、さまざまなにぎわいが生まれ、育っていくよう、まちづくり活動を進めていきます。

3つのテーマと6つのシナリオで描く港まちのまちづくり

3つのテーマ、暮らしやすい地域「暮らす」、港まちの魅力・にぎわい「集う」、協働まちづくり「創る」のもと、6つのシナリオと事業内容を展開し、まちづくり活動を行います。



地域の魅力を活かしたにぎわいづくり

地域の魅力的な風土や特色のある行事を生かし、地域に集う皆さまと魅力・にぎわいづくりを目指します。

- 取り組み
 - ・ 江川線沿いにマーケットを展開し、さまざまな世代の人々が集う交流の場をします。
 - ・ 春まつりやセーラーズなどの学区連絡協議会や商店街などのイベントに連携協力します。
 - ・ 地域が誇る「みなと祭」の継続と発展を目指し、新たな担い手の発掘を図ります。
 - ・ 新たな魅力づくりに向けて水族館や名古屋港管理組合、プロスポーツチームなどと連携を図ります。



新たな協働と連携づくり

街の活動を支える多様な人々・団体などの“新しい風”の参入を促進し、これからの街をつくり支えていく人々を大切にします。

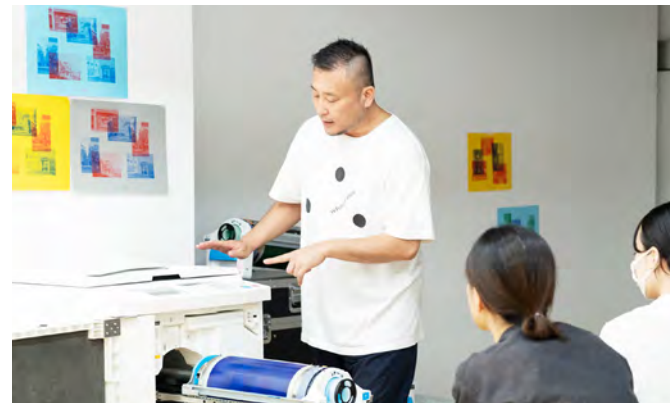
- 取り組み
 - ・ 名古屋市や名古屋まちづくり公社などと連携し、街中の魅力的な空き物件の活用を促進します。
 - ・ 公園や道路などの公共空間を地域資源と捉え、街なかを歩きかけとなる利活用を促進します。
 - ・ ビジョンに基づくまちづくりのための勉強会などを開催します。
 - ・ 学区連絡協議会や商店街、地域店舗などと協働し、地域の回遊性を高める仕掛けづくりを検討します。
 - ・ 提案公募型事業を地域でチャレンジをしたい人々の入り口とし、将来的に港まちづくり協議会や地域と協働していける人々を広く募集します。
 - ・ さまざまな担い手と協働しながらビジョンに基づくまちづくりを促進し、その調整と進行管理を行います。
 - ・ 地域の意向とビジョンとの整合性を図りながら、名古屋市に要望する事業を調整します。



安心を支える防災まちづくり

海に面した地域特性をふまえ、港区の公共施設や地域団体と連携し住民の自助力・共助力を高めます。

- 取り組み
 - ・ 港消防署や西築地消防団などと連携を図り、町内会単位などの訓練実施の機会をつくります。
 - ・ 学区連絡協議会や港区役所と連携し、津波避難訓練や津波避難ビルなどの広報活動に取り組みます。
 - ・ 港区役所と連携し、「西築地学区 震災避難行動マップ」の改訂作業に取り組みます。
 - ・ 災害時の心の備えとして、被災地の教訓を学ぶ機会をつくります。
 - ・ 港区役所や周辺学区と連携し、避難所運営や防災訓練に関する情報共有に努めます。



創造性を活かした街のファンづくり

文化的な取り組みや創造性をまちづくりに取り入れ、街に魅力を感じる来訪者と街で活動する人々を増やします。

- 取り組み
 - ・ まちづくりに興味を持つ新たな担い手呼び込みます。
 - ・ アートや音楽、デザインを活用し、街なかのにぎわいの創出や、街の魅力発信を行います。
 - ・ 地域活動団体や教育機関などと連携し、港まちポットラックビルや街なかのスペースを発表の場として活用します。
 - ・ 街を継続的に訪れファンとなった人々に、新たな担い手としての活用場を提供します。



人々をつなぐ情報発信の拠点づくり

西築地周辺の情報を地域内外の人々に届けます。さらに、全国のまちづくり情報などが集まるキーステーションとして拠点を運営し、人々に開いています。

- 取り組み
 - ・ 広報誌ポットラック新聞を発行し、西築地周辺のまちづくり活動や地域情報を地域内外に届けます。
 - ・ 学区だよりの役割を担う地域情報を掲載します。
 - ・ 紙媒体やWEB、SNS 発信など受け手や時代に合わせた情報発信を行います。
 - ・ 地域情報や全国のまちづくり情報などを収集し、情報発信を行います。



顔の見える居場所づくり

人々のつながりを深める居場所をつくり、日々の楽しみを育むことのできる環境を目指します。また地域活動の課題に寄り添い解決策を共に探します。

- 取り組み
 - ・ 地域主体で開催するイベントの広報や運営協力を行います。
 - ・ 誰もが参加し利用ができる居場所となる会や場を設けます。
 - ・ 子育て世帯が楽しめる地域を目指し、イベントでの託児や親子で参加できる体験講座などを実施します。
 - ・ 「地域団体が企画を作る手伝いをしてほしい」など、お悩みごとの相談を受け付けサポートします。